

ご挨拶

緑の眩しい季節がやって参りました。皆さまのお変わりない、お元気での活躍を祈りしております。冒頭ですが、この会報を作成して居ります間に、熊本での大きな地震が発生し、長崎でも大きな揺れにただならぬ思いを致しましたが、この地震が尚継続して九州中部を襲い、被害がより拡大していることに、たいへん胸が痛みます。3.11の教訓が活かされるよう、ご関係者の皆さまには心からお見舞い申し上げます。

一方、東日本大震災が発生してから既に5年。様々な形での復興を遂げている地域、復興が進まない地域、ともにこの節目にと多くの報道を目に致しました。大きな努力で復興を遂げつつある地域の方々も、心に深い傷を抱えつつ生活して居られる状況、いまもなお仮設住宅に住まいせざるを得ない方々も居られる状況、さまざまな現実を改めて知らされますと、私たちはこの災禍を決して忘れず、少しでもお役に立つあり方を模索して行かねばならない、と改めて心に刻む時でした。

ご承知のように、2011年3月以降にスタートした私どもCCCの福島復興支援は、現在では、今も避難生活が続く飯館村の皆さまを対象とした「こころのケア」に絞り込んでの活動となっております。避難という非日常がこの5年という歳月の中で、その暮らしを大きく変化させてこられました。そのような中で、私どもCCCは、折に触れ現地を訪問することで実際に見聞きすることから、その変化を垣間見、その折折に必要なと考えられる方法を行政の皆さまのご意見を頂戴しながら取り入れての活動を実施して参りました。

2015年度も、当初から継続している、幼稚園児の観察と生育の問題の把握と対策を保護者の皆さま、幼稚園の先生方、役場のご担当者とのご相談・アドバイスといった活動のほかに、未だ仮設住宅でお暮らしの方々へのケア活動も実施して参りました。現地に参りますと、まだまだ村民の皆さまに寄り添う活動が必要だと心から感じます。

今年度は、会員の皆さまからの会費、ご寄付、活動ご協力に加え、Yahoo!基金様からの助成金、CCCの活動にご賛同いただいた団体様からのご寄附を頂戴することが出来ました。心から御礼申し上げます。

一方、東日本大震災支援としての活動への公私に亘る助成金、ご寄附はほぼ打ち切られてきている状況にあります。この活動報告をご覧いただいている皆さまに於かれましては、何卒今後ともご支援頂きたく、日頃の感謝を申し上げつつ改めてお願い申し上げます次第です。

平成28年5月吉日

感謝を込めて

CCC代表

出口貴美子

♡ CCCをご支援ください ♡

～会員或いは賛助金でのご寄附をお願いしております～



2016. 2. 7村民集会で子どもたちと

この活動は皆さまからのご寄附で成り立っております

♡会 員 年会費 10,000円 ♡賛助会員 1口 1,000 円(1口から何口でも!)

(振込先: 十八銀行 大村支店 普通預金1045920 口座名義 シーシーシー)

CCCのHP (<http://www.cocoro-cc.com/>) に会員申込頁を設けました

ご友人等CCCの趣旨や活動をご紹介いただきご案内願えば尚有り難く存じます

【今後もCCCは活動を継続して参ります】

冒頭でも言及致しましたが、被災地の皆さまの震災から派生する、暮らし、こころの問題は時を経るに従い、深く個人の生活や地域の特性に関連した個別の問題になってきています
それはともすれば共感してくれる人がいなかったり、あるいは報道などの表面には現れてこないプライベートな側面が大きい問題であったりもします
また避難生活が長くなり、小さな子ども達は既に避難生活の方が長く、村での生活の記憶はほとんどありません。この子らの心の故郷はどこになるのでしょうか
目には見えない、測定器でも計れない問題が、まだ山積みです
毎日共に居ることが出来ない活動は、試行錯誤の連続です
そんな中でも日々元気に育っていく子ども達の成長を見守ることが私たちCCCに出来ることと考え引き続き活動を行って参ります

♥♥平成27年度 下半期（2015年10月～2016年3月）活動ご報告♥♥

◇今年度、CCCはYahoo!基金様の助成金を頂くことが出来ました。ご担当の田村氏が年が明けた2月7日飯舘村
村民集会開催時に、私どもの活動取材してくださり、Yahoo!基金HPに掲載されました。大変丁寧に取材していただきましたので、その内容を皆さまへのご報告のひとつとして、「助成金の使われ方」に掲載された記事をそのまま転載させて頂きました。【掲載サイト <http://yahoojapanpr.tumblr.com/post/141460878147/0322csr>】



Yahoo!基金で事務局を務める田村です。

Yahoo!基金は、ヤフーが2006年に設立した任意団体で、災害復興支援やNPO支援などの活動を行っています。昨年9月から災害復興支援活動の一環として、東日本大震災の復興支援に取り組む非営利団体を支援する新たな助成事業を始めました。

今回はその助成先の一つ、福島県いわき市や飯舘村で子どもと保護者の心のケアなどを行っている「Cocoro Care for Children」の活動取材してきました。

福島県・飯舘村は、「日本で最も美しい村」に選ばれるような日本の原風景が残る村。その生活文化は、手間暇惜しまず、丁寧に、心を込めて、相手を思いやる“までい”と呼ばれ、未来永劫に残したいとまで言われていたそうです。東日本大震災発生時は大きな揺れに襲われたものの被害は小さく、震災直後には、隣接する地域からの避難者へ炊き出しをつくるなどして、受け入れていました。しかしその後、村のほとんどが福島第一原発から30キロ圏の外に位置しているにもかかわらず、土壌の放射線量の高さから当時「計画的避難区域」に指定され、村は全村避難することになりました。現在でも、村の約半数の方が福島市内に避難していらっしゃるそうです。



(震災前の福島県・飯舘村の様子。
写真提供：いいたてネットワーク)

Cocoro Care for Childrenの活動とは？

Cocoro Care for Children（以下CCC）は、飯舘村で子どもとその保護者の心のケア活動をしています。小児科医などの医療関係者が中心となって立ち上げた団体なので、専門家の立場からのサポートもできる団体です。

「飯舘村の大人たちは、本人の意思とは関係なく、住み慣れた故郷を離れた場所で暮らしています。子どもの心は親の心を映す鏡、親の不安やストレスは、

子どもの心に影響を与えます。そのために、子どものケアだけではなく、親のケアも必要なんです」とCCCの精神科医・井上さんは話します。

具体的なケアは、村の方々との連携プレーで行っています。村の幼稚園の先生や保健師さんが日常的に子どもの様子を見て、気になる点があればふれあい集会のようなイベント時などに、CCCのところに行くよう促します。イベント時、CCCのブースには子どものおもちゃやスポーツインストラクター、名札づくりの名人の方など、子どもを楽しませるプロの方がそろっています。一般的な病院のように対面に座って話を聞くのではなく、子どもが遊ぶ様子を小児科医が観察し、徐々に子どもとの距離を縮めながら、反応をみていく方法をとっているそうです。

ボランティアで集まった医師たち

CCCの活動を中心になって行っているのは長崎県在住の小児科医・出口さん。なぜ長崎から遠く離れた福島県・飯舘村で活動するようになったのでしょうか。

「一緒に活動している内科医の佐藤さんがもともと大学の同級生なんです。彼は福島県出身なので、震災直後にいわき市に入り医師として救急救命活動していました。



気になって電話したところ、人手が足りないくて大変だ、と伝えられ長崎から応援に駆けつけました」（出口さん）

出口さんらは、しばらくはいわき市で活動が続けたそうですが、飯舘村にはもともと小児科医がいなかった関係から飯舘村の応援に駆けつけ、2012年から今の活動を開始されたそうです。その後、知り合いの医師や子どもに関わる専門家などに声をかけ、いまでは9人のメンバーで活動を続けています。

CCCが活動続ける理由

CCCのメンバーが手弁当でこの活動を続けているその原動力は何なのでしょう。

「1度来たら、あの子はどうなっただろうと気になるし、何度か訪問しているうちに、飯館村のみなさんに会うのが楽しみになった。支援しているのではなく、故郷に戻ってきているような気持ちになるのです」（出口さん）

これって、まさに飯館村の“までい”の精神なのではないでしょうか。

「アメリカでボランティアは、背伸びしない自分でできる範囲で行わないと長くは続けられないと学びました。自分は医師なので、そのスキルを使って、できることをしています。他の仕事をしていたら、その仕事のスキルでできることをすると思います。あと何より、放射能の問題は、20年、30年先でしか分からない問題。飯館の子どもたちが背負っていくであろう問題が、少しでも軽くなるようにできることをしていきたい」（出口さん、佐藤さん）

できることをできる範囲でしているだけと謙虚におっしゃっていましたが、佐藤さんの言葉からは熱い思いが伝わってきました。

取材を終えて

Yahoo!基金がCCCに助成を決めたポイントは、全国的に推奨されている発達障害の早期発見のための5歳時健診が飯館村では対応できておらず、この団体の医師たちが実施している点でした。取材で現地を訪れ、彼らの取り組みが単なる医師の活動にとどまらず、子どもから大人までのケアを飯館村の一員として行っていることがわかり、とても温かい気持ちになりました。（了）

♥いいたて村民ふれあい集会に参加、活動しました。



2016年2月7日（日）飯坂温泉のパルセ飯坂の大ホールで村民集会が開催されました。

CCCは2012年の被災後第一回の村民集会以降毎年ブースを設置し、子どもたちと遊んだり、その生育段階で様々な不安をお持ちの保護者の方々へ

の傾聴とアドバイスを行って来ました。今回も同様の広い部屋をいただき行政のご担当者とも今後の活動方針など様々なご相談をして来ました。





副代表の井上医師が東京で講演しました

市民社会をつくるボランティア・フォーラムtokyo2016講演

CCC副代表 井上 健

平成28年2月13日に、東京飯田橋で開催された市民社会をつくるボランティア・フォーラムtokyo2016の分科会「東日本大震災から5年：そしてこれから」に招待講演者として井上が参加しました。

このフォーラムは、形を変えながら長い歴史を持つボランティア活動に関するフォーラムだそうで、様々なフィールドで活動するボランティアのリーダーシップをとっている人々が一同に会して、情報交換やネットワーク作りを行うことと目的にした会であるとのこと。今回、震災後の医療支援から始まったCCCの活動について、たくさんの写真を交えて報告をしました。

30名ほどで満員になる小さな会議室でしたが、追加の椅子を急遽並べるほどの満員で、震災ボランティア活動への興味関心が引き続き高いことがわかりました。同じセッションでは、様々な形で震災後の支援を継続している方々からの報告があり、大変勉強になりましたが、共通する問題は自立と心の支援に関することであることがわかりました。避難指示解除に伴って行政の対応も変わります。どのように自立出来るようサポートすべきか、難しい問題が山積みです。



(株)おやつカンパニーから、お菓子のプレゼント！！



昨年暮のお正月に向けたある日、ベビースターラーメンなどで子どもたちから熱烈な支持を受けている株式会社おやつカンパニー（本社：三重県）松田好旦社長から、飯舘の子どもたちにと、たくさんのお菓子を頂戴し

ました。子どもたちも大喜び！おやつカンパニーは三重県津市に工場と本社を構え、次々と新しいお菓子を生みだしている会社です。子どもたちに元気を！との松田社長のお気持ちは、草野・飯舘幼稚園の園児たちの笑顔に繋がりました。



・ ・ ・ CCC 2014. 10～2015. 10 活動記録 (平成26年10月～平成27年10月) ・ ・ ・

♡2014年10月10日 村立仮設小学校にて生徒さん向けに特別授業を実施



訪問者 代表 出口貴美子 副代表 井上健

『君たちの心が育つために；睡眠がカギ！』と題して、脳を育て、心を育むため、寝ている時に脳から出てくるホルモンが成長に大変大事な役割をすることから、「質のいい睡眠」を取ることが大事とお話ししました。

♡2015年2月8日 いいたてふれあい村民集会に「こころのケア」ブースを以て参加しました

参加者：代表出口貴美子、副代表井上健、理事佐藤哲也

CCCは第1回のふれあい集会から継続して「こころのケア子育て相談」コーナーを設置しています。

♡2015年2月26日 飯館村立仮設幼稚園で海外メディアからの取材

参加者 代表出口貴美子 副代表井上健 理事佐藤哲也 理事星田啓子

震災後4年を目前にして、内閣府が海外メディア（10カ国）のための福島県取材ツアーを企画し、そのなかでCCCは、園児の親御さんとともに取材を受けました。

♡2015年10月2日（金）◇飯館村立草野・飯樋幼稚園での活動

◇村役場、仮設住宅訪問 における活動

※幼稚園訪問組と仮設住宅訪問組に分かれての活動です。

◇村役場で健康福祉課において把握している問題事例に関する事例検討会
検討会でのスーパーバイザーと仮設住宅への訪問。

参加者：副代表 井上健医師 理事 佐藤哲也医師



育児に関して問題のあるケースに関して、その支援に当たっている飯館村と福島市の担当者との連絡検討会に出席し、専門的な立場からのアドバイスを行いました。

午後からは、その日に訪問要請のあった仮設住宅に住む村民など2件について、保健師とともに訪問し、健康相談などについて傾聴しました。同時に、仮設住宅の管理人の話も聞き、仮設住宅に残されている村民の状況について認識を深めてきました。

◇飯館村草野飯樋幼稚園の訪問。

訪問者：代表出口貴美子医師、長崎県大村市国際交流プラザ Dirkzen Kai Pence氏、理事星田啓子

出口代表の地元、長崎県大村市の国際交流を担当している職員、kai（カイ→海）さんが、大村市でも成功している、子どもたちへの英語の絵本の読み聞かせ活動を実施。飯館村の広報担当の方や健康福祉課の大河原さんも加わっての訪問となりました。

午後は、保護者からの発達相談ケース2件で、じっくり話を伺った。最後に、園の先生方とミーティングを行い、軽度発達障害の子ども達との関わりなどに関し、アドバイスを行いました。

